

# やまがた農の匠

～平成29年度グッドハーベストコンクール県知事賞のトップ技術～

## 大豆の部（個人）

川西町 川崎 修 氏



大豆生産部会の圃場巡回の様子

品種 「里のほほえみ」

収量 265.5kg/10a

経営面積 4.1ha、うち大豆 1.8ha

### Point 排水対策の徹底と地力増強で安定多収を実現！

#### 高収量技術の肝

- ・鶏ふんによる地力増強を基本に、一発基肥肥料を組み合わせた施肥設計としており、追肥を省略することで肥料代のコスト削減、さらに培土作業の効率化が図られている。
- ・弾丸暗渠を施工して排水対策を徹底しており、湿害を防止して初期生育の確保に努めている。
- ・川西町では排水対策の助成を行うなど、「まめの町」として大豆の振興を図っている。

## 大豆の部（団体）

高畠町 株式会社萩原農園  
（代表取締役 萩原 拓重 氏）

はぎはらのうえん



萩原代表取締役



素晴らしい生育の「シュウリュウ」

品種 「シュウリュウ」

収量 286.0kg/10a

経営面積 21.0ha、うち大豆 9.0ha

### Point 全国トップレベルの栽培技術でこだわりの大豆づくりを実践

#### 高収量技術の肝

- ・契約栽培に力を入れ、実需者が求める品種を、こだわりの大豆づくりで高品質に仕上げている。
- ・プラソイラ耕による透水性の向上及び作土層の反転による地力改善を行っている。プラソイラ施工後にロータリー耕を行って土壌表層の砕土率を高め、播種作業を容易にするとともに、播種精度を高めて初期生育確保につなげている。
- ・石灰入り肥料を施用して、大豆の生育に適するように土壌酸度を矯正している。
- ・実需者ニーズに対応して複数の品種を栽培しているが、作期分散を図るとともにきめ細やかな栽培管理を行って高品質・多収栽培を実現している。

## そばの部（個人）

### 大蔵村 柿崎 正敏 氏



大蔵村塩台の「最上早生」

品種 「最上早生」

収量 65.4kg/10a

経営面積 21.8ha、うちそば21.8a

#### Point そば単作で大規模経営・高収量を実現！

##### 高収量技術の肝

- ・そばの前作は、遊休牧草地であったことから排水性は良好であったが、さらに明渠施工を徹底して排水性を高め、そばの生育に適した条件としている。
- ・条播栽培を行うことで発芽が揃い、生育のバラツキが無くなった。これにより、登熟の進捗にもバラツキが無くなり、適期収穫が可能となった。
- ・施肥は、化成肥料を用いず、発酵鶏糞を活用している。地力を維持し、そばの生育量確保に努めている。
- ・秋耕を行って収穫残渣の分解を促進し、地力維持に努めている。
- ・大面積を作付けしているが、計画的に収穫作業を行って適期内に作業を完了するよう努めており、刈り遅れによる脱粒や品質低下を防いでいる。

## 飼料用米の部（個人）

### 酒田市 高橋 勉 氏



成熟期を迎える「ふくひびき」

品種 「ふくひびき」

収量 840.0kg/10a

経営面積 3.4ha、うち飼料用米60.0a

#### Point 田畑輪換を利用して安定的な高収量を実現！

##### 高収量技術の肝

- ・田畑輪換を行うことで地力の低下を防ぎ、安定した大豆・飼料用米の収量確保を行っている。
- ・また、土壌窒素が発現しやすい状況にあるため、施肥の省略や低コスト化に努めている。
- ・圃場の状況を細かく確認することにより、病害虫の早期発見、早期対応を心掛け、病害虫防除を慣行の半分にし、低コスト化を図っている。